



保育料と合わせ給食費も無償に

大山 二郎 議員

無償にしていけるよう考える

町 長

子育て支援

10月から保育料が3歳児から5歳児まで無償になる。来年3月までは国が負担するが、4月から町の対応は。

町長 無償化に伴い、国は今年10月から半年分は全額負担するとしているが、来年4月からは財源の確保が問題になる。ただし、国の算定の仕組みが変更になり、国庫の補助金が保育料として保護者が納付する金額以上に



子どもたちの笑顔は町の宝物

なるため、特別な財政措置は必要がない。

国は、給食費は別としており、給食は保育の一環であり、町として子育て支援の観点からも無償にすべき。

町長 保育が無償化と引き換えに、新たに食料費を徴収することは、保育料無償化の本質に逆行することになるので、慎重に検討を進める。私としては、財政とも相談し、給食費も無償にしていけるよう考えるが、他自治



かかるよりも予防接種の方が経費は安い

体の動向も踏まえたうえで判断する。

インフルエンザ予防

予防接種の助成内容は。

町長 対象を6ヶ月児から中学3年生までの児童生徒で、1回につき2千円を助成。小学生以下の児童については2回分を予算措置している。どうすれば助成を受けられるのか。

保健福祉課長 予防接種を受けた医療機関で、2千円を引いた差額の料金を支払って頂くことになる。

新分署周辺道路

冬期間、緊急車両が通るには道路事情が悪く整備が必要では。

町長 通学路整備が優先で、街路整備事業の補助がなく難しい。昭平橋までの通りも、冬期間の道路事情が悪い。通学路でもあり改修が必要だ。

町長 拡幅を伴う道路整備は多額の事業費を要するので難しい。散水消雪点検業務の結果を踏まえ今後の対策等を検討する。



舟運文化をもつと発信すべき

齋藤 公一 議員

既存公園施設の有効活用が優先

町 長

親水施設整備

長井市では国の事業である「かわまちづくり支援制度」に取り組み歴史文化景観を内外に発信し誘客に努力している。

町長 当町は、平成11年から平成15年まで「かわまちづくり事業」として修景護岸や遊歩道整備等を行っており、それらを活かすことが優先だと考えている。

当町出身者が基点で舟下り事業を始めると聞いたが、コースを大石田まで伸ばしてもらうなどできないか。

町長 初めて聞いたが、

コース延長には国交省との協議等々があると思われるが現時点では答えられない。

大石田町には、町内外に誇れる広い公園がない。特殊堤や遊歩道を公園として活かす考えはないか。

町長 下河原グラウンド等もよく利用されているが、洪水時の事を考えると難しい。

新幹線の停車する駅から最上川まで一番近いのが大石田町。寺院や温泉施設も川に近い。支援制度の活用を検討できないか。



最上川の舟運文化を活かせる施設を

あるため非常に難しい。大石田は舟運文化で名をはせている。それを活かせる町の努力が必要では。

町長 夢物語にならないよう、これからの町の観光面を考えていく。パークゴルフ場を作れないか。

町長 再整備の観点からパークゴルフ等も視野に入れて考えていきたい。